

浜松版MaaS構想（案）

【解説版】



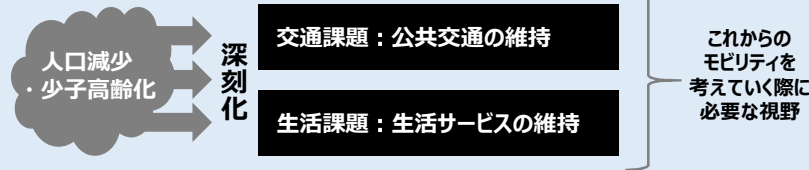
持続可能なまちづくりや生活サービスの維持・質の向上に向けて

交通領域にとどまらず、市民の生活全般に関わるテーマとして捉えた“新たな発想のMaaS*”が求められています。

* MaaS : 「Mobility as a Service」の略。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる。

浜松市の現状と課題

- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティ（乗り物等、人の移動に関わることやモノ）の連携による持続可能なまちづくりが望まれている。



- 本市は「デジタルファースト宣言 (*①)」のもとデジタル・スマートシティ (*②)の取組を始動。分野間連携による市民QoL（生活の質）向上や都市の最適化*に向けMaaSの取組との連携が求められている。



*都市の最適化：都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、効果的・効率的な都市計画、都市整備、都市管理・運営を実現すること。

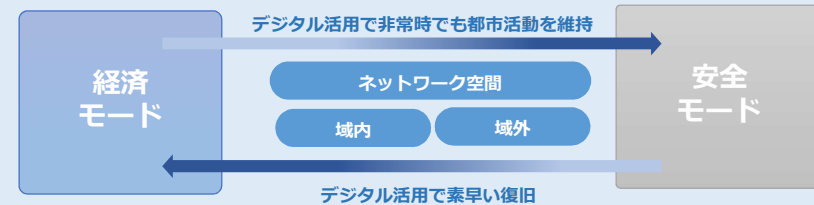
関連動向

- 国は、骨太の方針（経済財政運営と改革の基本方針）で、**東京一極集中型から「多核連携型」への移行**を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備を推進することとしている。そうした中、**移動環境の整備は重要施策の一つ**であり「自家用有償旅客運送 (*③) 制度の創設」や「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置付けられている。また、国際社会における環境負荷低減の要請への対応も求められている。

日本版MaaSの推進
(成長戦略フォローアップ)
R2.7.17閣議決定

- ① 地域における移動手段の維持・活性化
- ② モビリティと物流・サービスとの融合（自家用有償旅客運送の円滑な実施…等）
- ③ 新しいまちづくりとモビリティ
- ④ データ連携の加速

- 「ウィズコロナ/ポストコロナ時代」の「ニューノーマル（新たな常態、常識）」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会 (*④)」の構築も求められている。



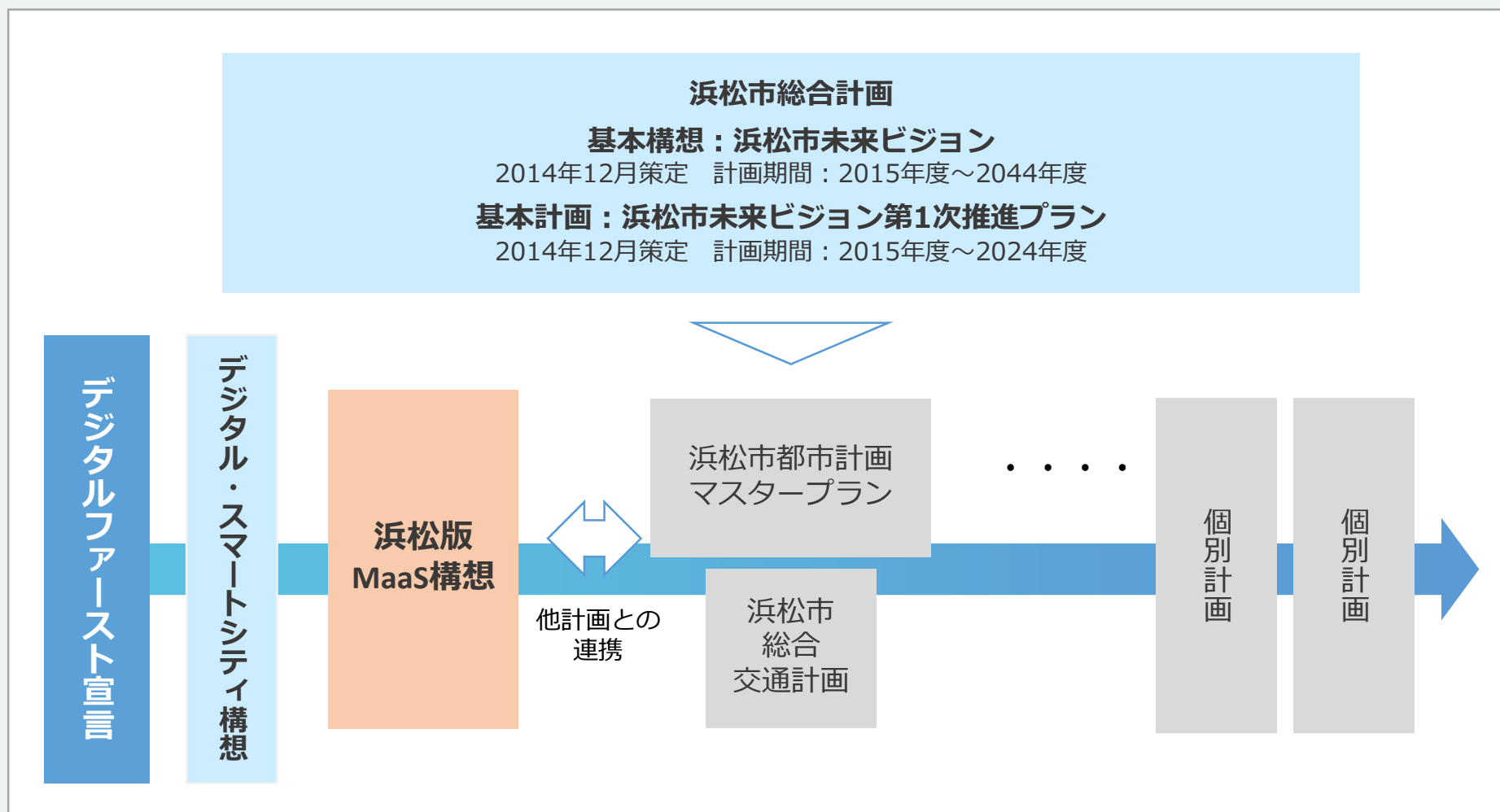
モビリティと各種サービスの連携による持続可能なまちづくりを推進するにあたり、その指針として「浜松版MaaS構想」を策定し、市民と共有するとともに交通領域にとどまらない様々なプレイヤー*による共創を促していきます。

*プレイヤー：サービスを提供または享受する企業、団体、個人など。

Ⅱ. 構想策定の趣旨／構想の位置づけ

本構想は、市民、企業・大学等、行政が主体的に参加し、地域課題解決や地域活性化に繋がるサービスを生み出す際の指針となるものです。

本構想は、本市の最上位計画である総合計画に基づく個別計画であるとともに、「浜松市都市計画マスタープラン」「浜松市総合交通計画」「浜松市デジタル・スマートシティ構想」等の他計画と連携しながら、交通課題に限らず多様な都市課題解決の取組の指針となります。



構想策定にあたっては、浜松市の特徴や強みを活かす視点を持ち、
浜松市ならではのMaaSを推進していきます。

強み① (多様性)

多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境

- 都市部・郊外・中山間地域と、様々な暮らし方・楽しみ方ができる多様な環境（国土縮図型都市）
- 新幹線や高速道路等、近隣都市圏とのアクセスが便利な交通環境



強み② (助け合い)

市民・企業の“やらまいか精神”や共助の心

- 「やってみよう」「やってやろうじゃないか」と、新しいことに果敢にチャレンジする精神、そして浜松を誇りに思い、互いに助け合う心など、オープンなイノベーション*の土壌

* イノベーション：これまでにない新しいサービスや製品などを生み出すこと



強み③ (創造性)

ものづくり力

- 世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカーが集積しており、また同時にスタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市（※5）でもある大企業とスタートアップ*の共創・創発が生まれやすい環境

*スタートアップ：短期間で、イノベーションや新たなビジネスモデルの構築、新たな市場の開拓を目指す動きや企業のこと



IV. 構想の目指す方向性（基本理念）

浜松市のヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことによって、持続可能でより豊かな都市の実現を目指します。

【基本理念】

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と浜松の暮らしはもっと輝く

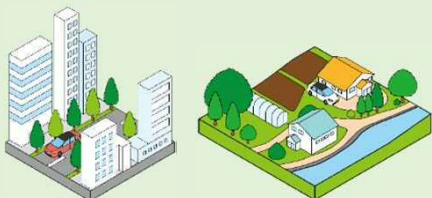
人口減少・少子高齢化で限られた資源（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。

さらに、ヒトの移動にとどまらない価値を創出し、

浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点1 地域ごとの魅力の最大化

- 都市部から中山間地まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の魅力最大化します。



例えば…

- ◆ 豊かな文化を享受する都市の暮らし
- ◆ 自然に囲まれた暮らし
- ◆ 東京や大阪等の大都市との二拠点生活

必要な視点2 ともに支え、ともに創造

- 人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。



例えば…

- ◆ 自家用有償旅客など、公共交通事業者だけに依存しすぎない市民も参加しての移動環境づくり
- ◆ アイデアソン等、みんなで考える機会の創出

必要な視点3 しなやかに繋がる

- 利用者目線のシームレス*なサービスや自然災害・パンデミック（世界的大流行）への備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。



例えば…

- ◆ ヒトだけでなく、モノ・コトの移動も含み最適化
- ◆ 様々な状況に応じて、ヒト、モノ、コトの移動が柔軟に繋がるサービスの設計

必要な視点4 市民起点でのまちづくり

- コンパクトでメリハリの効いたまちづくりとともに、デジタルテクノロジー（情報技術）は手段として捉え、高齢者や子育て世代をはじめ多様な市民の生活ニーズからサービスを発想します。



例えば…

- ◆ 技術ありきではなく、市民の生活ニーズから発想（デジタルテクノロジーはあくまで手段）
- ◆ アイデアソン等、みんなで考える機会の創出(再掲)

* シームレス：機能やサービスがよく連携していて利用者にとって快適であるということ。

V. MaaS推進の考え方

『喫緊の課題への対応（アプローチ①）』と『未来へのチャレンジ（アプローチ②）』を組合せて取り組みながら
多様性・創造性といった浜松市の強みを最大化していきます。



市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」
浜松市未来ビジョン実現への貢献



ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことで浜松の強みを最大化

多様な暮らし方
(多様性)

市民・企業の共助／共創
(助け合い)

ものづくり力
(創造性)

喫緊の課題への対応

“交通・生活課題”
の解決や
“安全・安心”な
暮らしの確保

アプローチ①

持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②

より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

未来へのチャレンジ

移動負荷
を軽減し
“豊かさ・賑わい”
を増進

蓄積

活用

モビリティサービス利用データ／人流データ*

* 人流データ：いつ、どこに、どれくらい人がいるかを示すデータ

デジタル・スマートシティのデータ

デジタル・スマートシティ
の取組と連携し、利活
用推進

VI. モビリティサービス (取り組み例：まとめ)

喫緊の課題への対応

未来へのチャレンジ

“交通・生活課題”の解決や、
“安全・安心”な暮らしの確保

アプローチ①
持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

移動負荷を軽減し
“豊かさ・賑わい”を増進



VI-1-1. 持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取り組み例）

アプローチ①
持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

“交通・生活課題”の解決や、“安全・安心”な暮らしの確保



移動診療の推進 (医療MaaS)

☞ P16で詳述

車を活用した遠隔診療や
遠隔服薬指導、薬剤配送の
推進



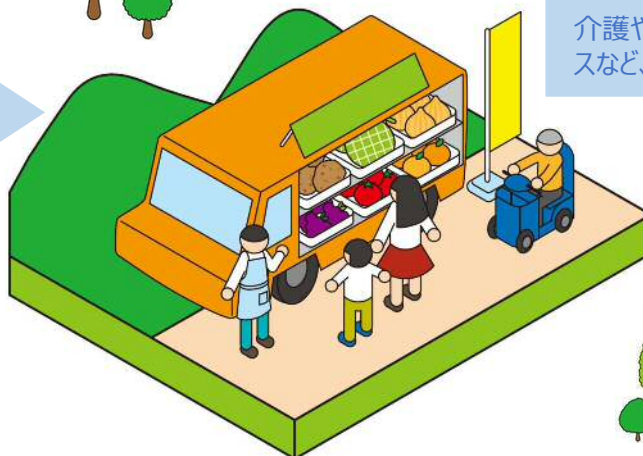
自家用車を使った 乗り合いの促進

(自家用有償旅客運送等)

公共交通の維持が困難な地域を
中心に、住民が自家用車を用い
て、有償運送する共助型のサービ
スの導入を促進

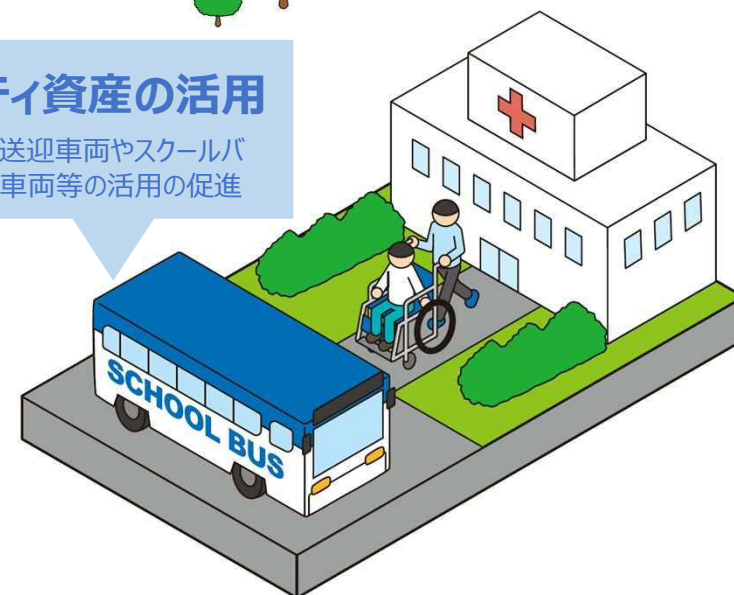
移動販売や配送の 地域内連携

買物難民や宅配業の人手不足
等への対応として、支えあいによ
る小売や物流の促進



遊休モビリティ資産の活用

介護や福祉施設の送迎車両やスクールバ
スなど、昼間の遊休車両等の活用の促進



VI-1-2. 持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取り組み例）

アプローチ①
持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

“交通・生活課題”の解決や、“安全・安心”な暮らしの確保

異なる交通手段の連携や
一体的運用・運営

異なる交通手段の連携やデマンド型*の
運行等を活用し、移動の効率化を促進

* デマンド型：利用者の事前予約に応じる形で運行経路や
運航スケジュールをそれに合わせて運行する公共交通のこと

移動や人流データの
活用・見える化

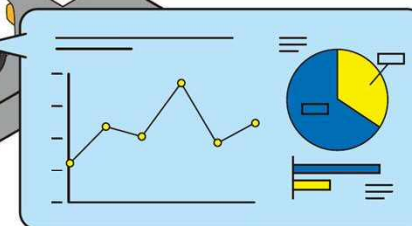
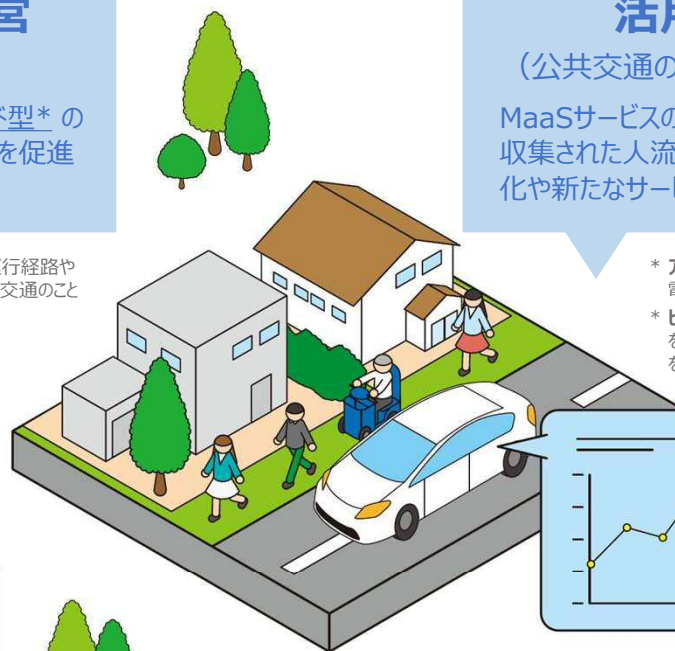
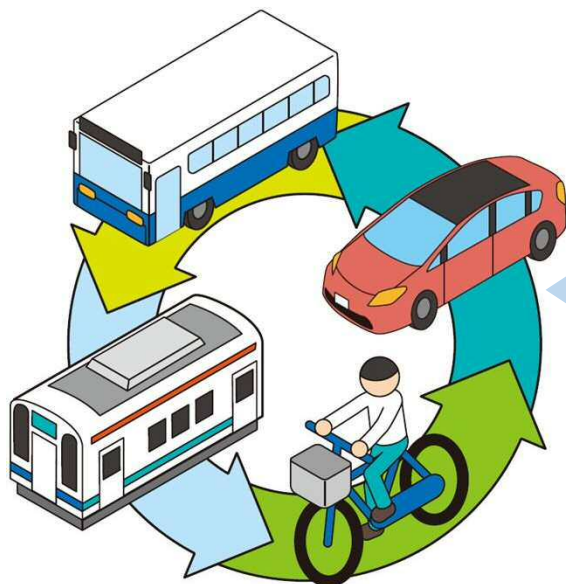
（公共交通の効率化、アプリ*活用など）
MaaSサービスの利用データや、ビーコン*等で
収集された人流データ等を活用し、運行の最適
化や新たなサービスの創出を促進

* アプリ：「アプリケーション」の略。パソコンや携帯
電話上で使える様々なソフトウェアのこと

* ビーコン：近距離でデジタル機器のデータ通信
をやり取りする無線通信技術「Bluetooth」等
を使って、情報を発信する端末や通信方法。

デュアルモード社会づくりへの貢献

自然災害やパンデミック発生など、移動が制限される際の
ドローン等の活用の検討



VI-2-1. より豊かな生活を創造するモビリティサービス（取り組み例）

アプローチ①

持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②

より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

移動負荷を軽減し“豊かさ・賑わい”を増進

フードデリバリー プラットフォーム構築

☞ P16で詳述

浜松発の地方版、フードデリバリープラットフォームを官民連携で構築

浜松テレワーク*パーク構想

☞ P17で詳述

クルマをオフィス空間として活用し、駐車場等の空きスペースを利用することで、景観や環境を自由に選べるサービスを官民共創で構築

* テレワーク：情報通信技術（ICT＝Information and Communication Technology）を活用した、場所や時間にとられない柔軟な働き方のこと

自動運転車の活用

中山間地域をはじめ、公共交通の維持が難しい地域での活用を検討

観光資源との連携

モビリティで観光資源を繋いだり、観光施設やアクティビティ*とセットにしたチケットの販売等で浜松の魅力を最大化

* アクティビティ：旅行先での体を使った様々な遊びのこと



アプローチ①

持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②

より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

移動負荷を軽減し“豊かさ・賑わい”を増進

- * **多拠点居住**：都市部や地方部に複数の拠点を持ち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つ。
- * **サブスク**：「サブスクリプションサービス」の略。一定期間の利用権を定額性で支払う方式のサービス。
- * **関係人口**：特定の地域と多様に関わる人々を指す言葉。

多拠点居住*用 サブスク*MaaS

（関係人口*向けの移動環境）

「多拠点生活者」向けにサブスクで利用できる移動手段の提供など、多拠点居住者誘致に向けた環境整備



商業施設等との連携

クーポンの配信やサイネージ*へのリコメンド情報*の表示など、商業施設等との連携により、まちを活性化

- * **サイネージ**：表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイやプロジェクタ等によって映像や文字情報を表示するモノ
- * **リコメンド情報**：プロフィールや行動履歴から興味・関心がありそうなモノ・コトを予測した情報

イベント等との連携

食、音楽、演劇等、場所を問わず車で提供可能な様々なエンターテイメントを組み合わせ、浜松の豊かな自然を活用したイベントを提供

地域の課題解決にデータを活用し、持続可能で豊かな地域を目指す。

地域交通の効率化・生活インフラの維持

活用イメージ

- 自家用有償・乗り合いサービス
- バスルートの最適化
- 移動診療・移動販売

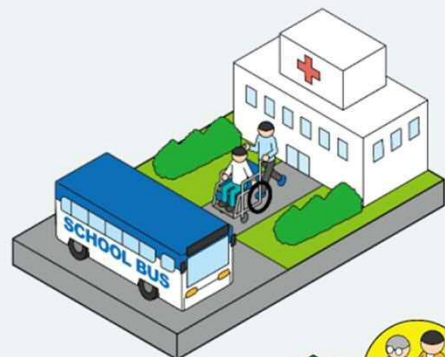
データ例

- 自動車GPS*/コネクテッド*
- モノ・サービス移動ログ*

* GPS：地球上の現在位置を、人工衛星からの電波で測り知る装置。

* コネクテッド：インターネットに常時接続されたモノ。

* 移動ログ：特定のヒトやモノの移動履歴。



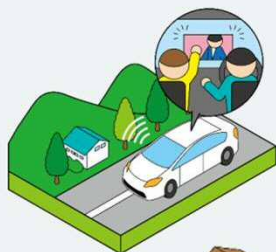
渋滞や事故軽減・インフラメンテナンス

活用イメージ

- 渋滞情報の共有や軽減対策
- 交通事故の軽減対策
- 道路等のモニタリング

データ例

- 市民GPSログ
- 自動車GPS/コネクテッド
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 公共交通ダイヤ/事故情報
- 車載カメラによる道路情報



地域活性化

活用イメージ

- 広告/クーポン配布
- 個々人に最適化された商品提供
- 移動を含む観光パッケージ

データ例

- 市民GPSログ
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 観光地・周辺施設情報



市民、企業・大学等、行政が役割を持ち、それぞれが主体的に参加する創発性の高いエコシステム（好循環）を形成。
 エコシステムの活動を通じて、地域課題解決・地域活性化に資するサービスやソリューション*を生み出していきます。

* ソリューション：抱えている課題を解決することや、そのために提供されるシステム

【役割】
 持続可能なまちづくりの主役として市民自らが役割を担い、企業や行政と共に新たな取組を考え、その担い手となっていく。

【役割】
 エコシステムに積極的に参加して他社や市民との共創により新たな取組を創出。自社事業として持続的に運営を担う。



「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」を中核とした、エコシステムの形成



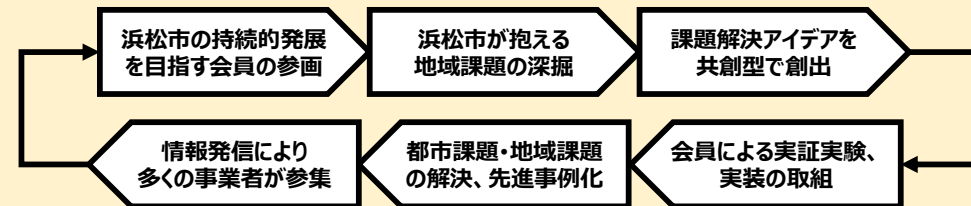
「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」は、モビリティサービスの観点から浜松市の持続可能な発展を目指して、令和2年4月に設立。官民が連携し、これからの

浜松市に必要なモビリティサービスを生み出すプロジェクトを支援し、会員同士の意識共有や新たな繋がりを創出しています。

「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創発性の高いエコシステムを形成しています。

モビリティサービス推進のエコシステム（好循環）

浜松市の新しいモビリティサービスを考えるアイデアソン（P17で詳述）など、会員主導のプロジェクト創出を支援。



市内のプロジェクト例

浜松市デリバリープラットフォーム

コロナ禍で影響を受けた飲食店を支援するために、官民が連携して、飲食店・消費者・宅配事業者などをオンラインで結ぶデリバリープラットフォームを形成。



浜松テレワークパーク構想

車や駐車場を活用することでより良いテレワーク環境をつくり、浜松市を挙げてテレワークを促進するための官民連携の構想。



2020年度から2024年度の5年間で浜松版MaaS構想の第一期と位置付け、
交通・生活課題の解決から着手して、モビリティとサービスの連携やデータ利活用へと徐々に拡大。
中期的に、“安全・安心”の確保や“豊かさ・賑わい”の増進を図り、市民QoL向上、「浜松市未来ビジョン」の実現を目指します。

喫緊の課題への対応

“交通・生活課題”
の解決や
“安全・安心”な
暮らしの確保

アプローチ①
持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

未来へのチャレンジ

移動負荷
を軽減し
“豊かさ・賑わい”
を増進

2020年度

2024年度

2044年度

浜松版MaaS構想 第一期

アプローチ②

アプローチ①

市民
QoL
向上

“交通・生活課題”を解決

“安全・安心”の確保

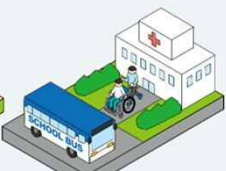
“豊かさ・賑わい”を増進



自家用車を使った
乗り合いの促進
(自家用有償旅客運送等)



移動販売や配送の
地域内連携



遊休資産の活用



移動診療
(医療MaaS)



デュアルモード社会づくりへの貢献



観光資源との連携



イベント等との連携



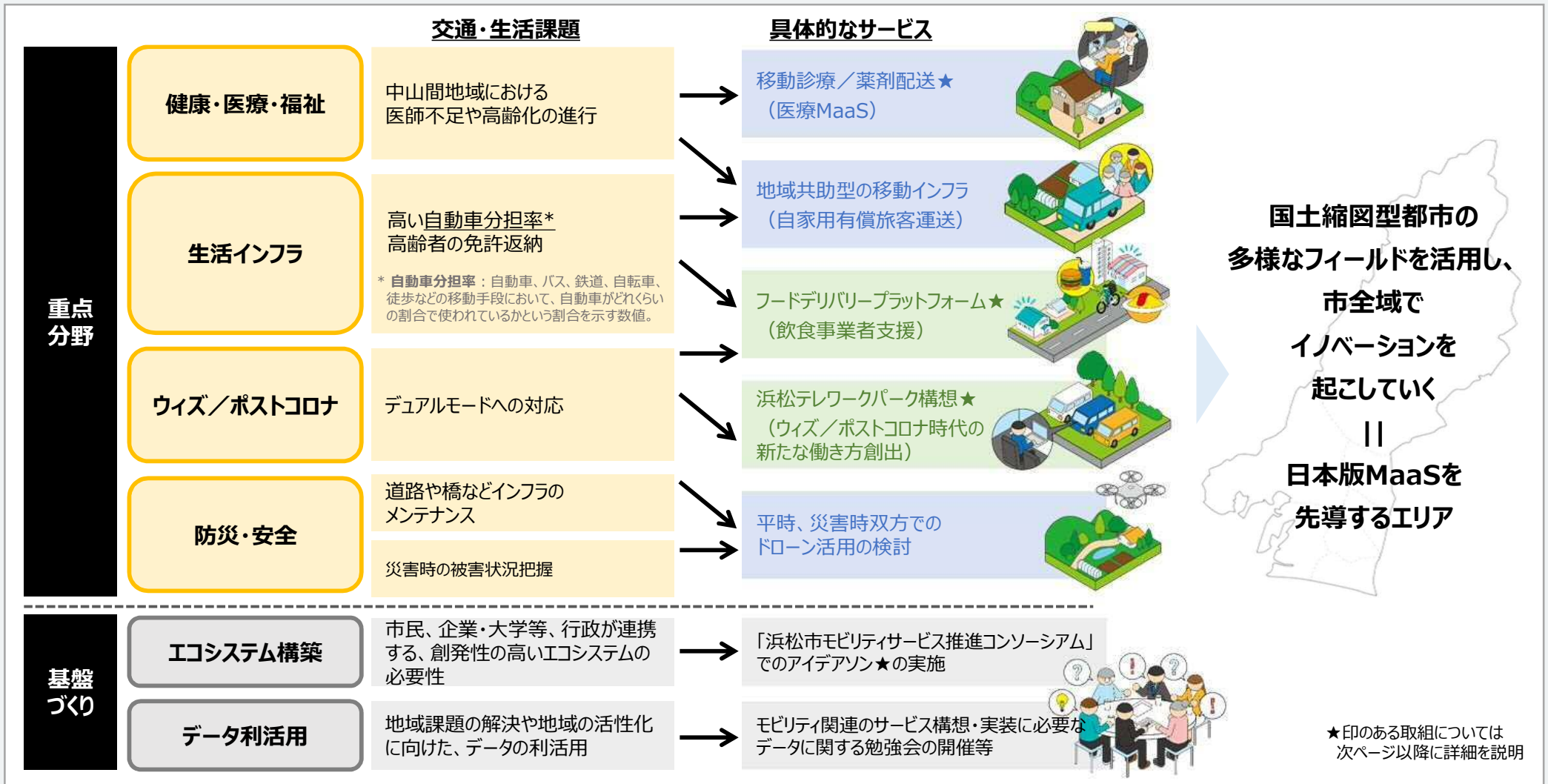
商業施設等との連携



市民協働で築く
「未来へかがやく創造都市・浜松」
浜松市未来ビジョン実現への貢献

IX. 第一期（2020年度～2024年度）の取り組みイメージ

構想第一期は、官民連携による創発性の高いエコシステムづくりや、データ利活用に関する研究等、MaaS構想の基盤づくりに取り組むとともに
重点分野として「健康・医療・福祉」「生活インフラ」「ウィズ/ポストコロナ」「防災・安全」を設定し
国土縮図型都市である浜松市の多様なフィールドを活用して、本市全域でイノベーションを推進。
これらの取組を通じて、浜松市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。

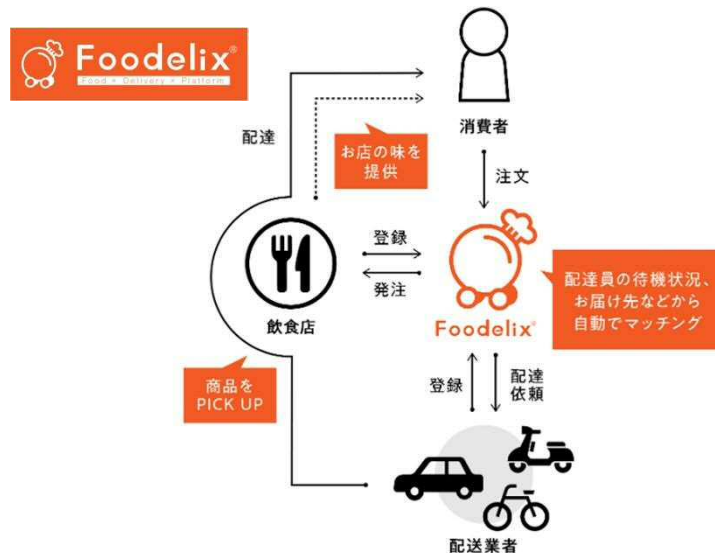


フードデリバリープラットフォーム

浜松市の地域特性に合わせた新しいデリバリー&テイクアウトプラットフォーム「Foodelix」の構築。

コロナ禍でテイクアウトニーズが増える一方、決済・配送エリアも異なる事業者単位でサービスを行っている為、利用者としては使いづらいという課題と、デリバリーサービスを利用したい事業者のノウハウ不足という課題を解決する為に、注文・決済・配送までの一元的に管理できるデリバリー & テイクアウトプラットフォームを構築。

(株)こころ、(株)日本シャルフ、(株)サンロフト、浜松市の4者で立ち上げ、2020年10月から運用を開始しています。



(2020年12月現在)

春野医療MaaS*プロジェクト

医療資源の乏しい中山間地域で、「医療を届ける」モデルの構築に向けた実証実験を天竜区春野町で実施。

天竜区は、高齢化が進行し、マイカー依存度が高く、今後、高齢者が免許返納等により自家用車での移動が困難になることが懸念されます。地域交通等の衰退による通院困難、地域の医療課題（医師不足等）により、将来適切な医療サービスの継続が困難になる可能性があるため、中山間地域において通院困難な高齢者に「医療を届ける」モデルの構築を目指す実証実験を実施。

実証実験では、移動診療車を用いたオンライン診療を行い、オンライン診療を受診した患者に対して医師や薬剤師と連携してオンラインでの服薬指導やドローンなどを使った薬剤配送も行います。実験を通じて、それらの運用上の課題を検証していきます。



* 医療MaaS：モビリティとデジタルの力によって、医師不足や高齢化等従来の医療課題を解決する新しい医療サービス

(2020年12月現在)

浜松テレワークパーク構想

駐車場をコワーキングスペース*として活用する事で浜松ならではの新たな働き方を提案。

コロナ禍で企業に求められたテレワークへの取り組みによって起きた「仕事ができる個室の確保」等の課題を解決するために、駐車場をコワーキングスペースとして活用する事で新たな働き方を提案する「浜松テレワークパーク実現委員会」を、We will Accounting Associates(株)、スズキ(株)、(株)東海理化、浜松市の4者で設立。

多拠点居住や関係人口拡大に貢献するサービスとして、2021年4月度以降の事業化を目指し、2020年11月より移動オフィスとコワーキングスペースの実証実験を開始しました。



* コワーキングスペース：異なる職業や仕事を持った人たちが同じ場に集まり、共有している作業場

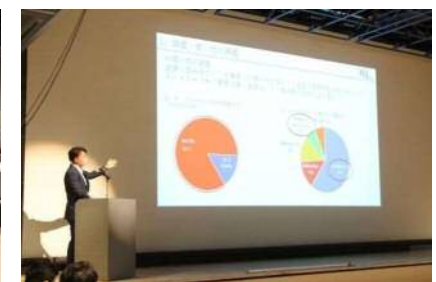
(2020年12月現在)

アイデアソン*

新しいサービスのアイデア創出に向けて、モビリティコンソーシアム参加企業同士での「意識共有」、「関係構築」、「価値創造」を促進する事を目的とした、企業共創型サービス創発プログラムを実施。

浜松市の課題視点で、それぞれの参加企業がサービスを創造していく事をサポートできる様に、MaaS、スマートシティ最新事例のインプット、浜松市の課題の深堀、共創型のサービスアイデア発想等のプログラムを用意。初年度は10社が発表を行い、浜松市長始め、コンソーシアム幹事企業からの講評など、各アイデアのサービス具体化に向けたサポートに貢献する施策となりました。

今後も本プログラムを定期的実施していきながら、浜松市民の生活の質を向上させる新しいモビリティサービスアイデア創出とプロジェクト具現化のきっかけの場として推進していく予定です。



* アイデアソン：「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、アイデアの創出を目的としたイベントを指す

(2020年12月現在)

<p>※1</p>	<p>デジタルファースト宣言</p>	<p>令和元年10月31日に発出。「データ活用や地域課題解決を通じたイノベーションの活性化」「デジタル化による生産性向上」「デジタル技術やデータの活用による市民生活の快適化」を目指すために「都市づくり」「市民サービス」「自治体運営」にデジタルファーストで取り組むことを宣言</p>
<p>※2</p>	<p>デジタル・スマートシティ</p>	<p>「デジタルファースト宣言」の3つの戦略分野の1つである「都市づくり」における政策。データや先端技術を最大限に活かし、産業の活性化やインフラの効率的な維持管理など都市機能の高度化を目指す</p>
<p>※3</p>	<p>自家用有償旅客運送</p>	<p>バス、タクシー等が運行されていない過疎地域などで、登録を受けた市町村、NPO等が自家用車を用いて住民を有償で運送すること</p>
<p>※4</p>	<p>デュアルモード社会</p>	<p>経済効率を重視する「経済モード」と、国民の健康と安全とを最優先にする「安全モード」の2つのモードを新型コロナウイルス感染症の状況に応じて適宜切り替える社会。 (事例) ・飲食 「経済モード」では店内、「安全モード」ではデリバリーで自宅で飲食 ・働き方 「経済モード」では職場に出勤、「安全モード」ではリモートワーク</p>
<p>※5</p>	<p>スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市</p>	<p>内閣府が経済面や技術面など様々な支援を行うことで世界と同等に戦える日本企業の創出を目指し、全国で4地域を選定</p>